



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



コスモス：(和歌山県)

トピックス：令和5年度「近畿中国森林管理局防災訓練」の実施

ニュース：奈良森林管理事務所、島根森林管理署、兵庫森林管理署

花草木：ガマ

我が署のスタッフ：福井森林管理署

森林事務所等紹介：長島森林事務所（三重森林管理署）

国有林最前線：保全課

トピックス

令和5年度「近畿中国森林管理局防災訓練」の実施

【企画調整課】

今年の「防災の日」(9月1日)は、関東大震災から100年となる節目の日であり、近畿中国森林管理局においても、「令和5年度総合防災訓練大綱^{*}(令和5年5月30日中央防災会議決定)」を踏まえ、管内の森林管理署等と合同で防災訓練(災害対策本部設置運営訓練)を実施しました。

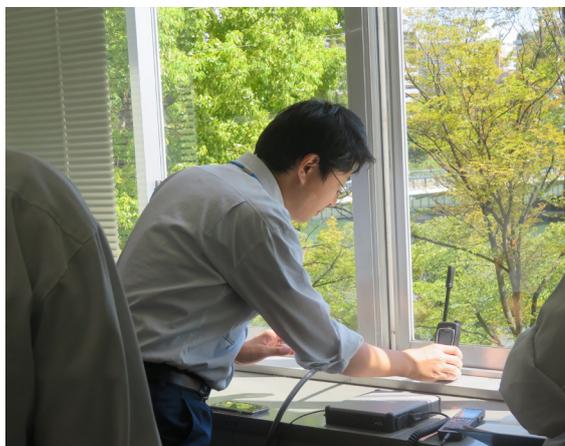
※国の行政機関、地方公共団体、その他の公共機関等の防災関係機関の災害への対応に関しては、災害対策基本法、防災基本計画等に基づき防災訓練を行うことが定められています。総合防災訓練大綱は、訓練を企画・実施する際の基本方針、国の訓練事項、地方公共団体の訓練への留意点等が示されており、継続的・計画的に取組むべき事項に加え、既往災害からの教訓や社会状況の変化等を反映し、毎年度、中央防災会議で決定されます。

今年の防災訓練は、四国沖を震源とする南海トラフ地震が発生し、大規模停電等により通信網が遮断された被害想定のもと、災害時の初動対応について訓練を実施しました。

森林管理局においては、緊急参集職員が発電機・衛星携帯電話等の災害用機材の設置を行い、電源及び通信手段を確保した上で、災害対策本部を立ち上げました。



外部アンテナ設置(屋上)



外部アンテナ(室内)

また、森林管理署等においては、衛星携帯電話により職員安否、庁舎被害等の状況を局の災害対策本部へ報告し、災害時の連絡体制の確保、初動対応について訓練を実施しました。



災害対策本部会議(情報収集)

災害対策本部会議では、災害状況報告の整理・取りまとめを行い、本部長（森林管理局長）等から指示を受けるなど、実践的な訓練となりました。



発電機から電源を供給し、災害対策本部会議を開催

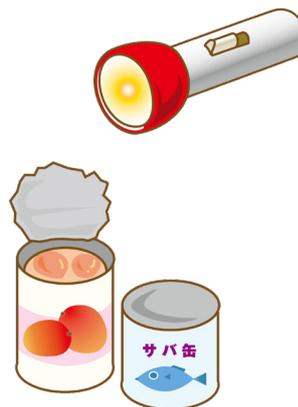
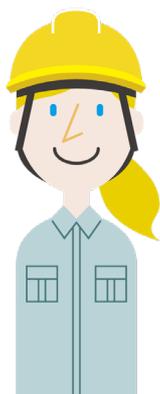
このほか、当日は、災害により交通機関がストップした際の自宅から職場までの通勤経路の確認を目的に、緊急参集職員が徒歩や自転車による参集訓練を行いました。

また、災害時の被災状況を現場から即座に共有できる「山地災害調査アプリ」を用いて各署等が被害状況の報告を行うなど、デジタル技術を活用した訓練も行いました。



山地災害調査アプリの画面共有の様子

訓練終了後、國井局長から「災害はいつどこで発生するか分からない。今回の訓練を踏まえて、実際に災害が発生した際の対応について、改善の必要性をしっかりと検討し、日頃から準備しておくこと」等の講評を受け、職員一人一人が防災意識を高めるとともに、防災訓練の重要性について改めて認識しました。



「ドローンを活用した森林調査の実技講習会」を開催しました。

【島根森林管理署】

8月30日（水）、島根県大田市において、県、市、林業関係団体などから16名が参加して、ドローンを活用した森林調査の実技講習会を開催しました。

今回の実技講習会は、令和5年8月1日付けで島根県との間で締結した「林業技術の相互供与等に関する協定」に基づき、地域ニーズを踏まえた「新しい林業」の展開のための技術普及の取組として、大田市からの要請に応じて開催しました。



新型ドローン「EVO2」の操作実演

当日の午前は、大田運動公園付近にある大田市市有林において、今年から導入した新型のドローン「EVO2」の操作実演や、森林技術・支援センター職員による、ドローン計画飛行によるオルソ化用画像の撮影を行いました。

午後からは、大田市森林組合に会場を移し、同センターでの視察プログラムの紹介、オルソ化実演や活用事例の紹介、また当署からは地上型レーザスキャナ「3DWalker」による森林調査の紹介などを行いました。

参加者からは、オルソ画像で樹種界を判別する方法や、「3DWalker」による調査と従来の調査との誤差などについての質疑及び意見交換を行いました。

島根森林管理署では、島根県との技術供与協定に基づき、引き続き地域からの要望に応じて技術普及等、地域林業への支援を行ってまいります。

令和5年度「古事の森・育成協議会」を開催しました。

【奈良森林管理事務所】

奈良森林管理事務所では、国宝・重要文化財等に指定されている神社・仏閣等の修復に必要な大径長尺材を確保するために、地域の育成協議会との協定を締結して、国有林内に「春日奥山古事の森」（奈良市）と「斑鳩の里法隆寺古事の森」（斑鳩町）の2箇所の古事の森を設定し、国民参加の森づくりを進めています。

今年度は、「令和5年度春日奥山古事の森育成協議会」を6月29日（木）に奈良市内において開催し、普及イベントとして「森林整備と石窟仏見学ツアー」を実施することになりました。



春日奥山古事の森育成協議会開催の様子

また、「令和5年度斑鳩の里法隆寺古事の森育成協議会」を8月30日（水）に当所において、開催しました。

会議では、法隆寺管長の古谷正覚会長より、「古事の森は、神社仏閣等の修復に必要な大径長尺材などを数百年かけて育成する超長期的なこれまでにないもので、今後も関係者が連携して取り組んでいくことが必要です」などの挨拶がありました。

議事では、令和5年度の普及啓発イベントとして「古事の森の林内クリーン活動」及び「専門家による森林教室」を実施することが決定されました。

奈良森林管理事務所では、引き続き両協議会と協力して国民参加の森づくりの活動を進めてまいります。



斑鳩の里法隆寺古事の森育成協議会開催の様子

積雪地の再造林におけるシカ被害対策の現地検討会を開催しました。

【兵庫森林管理署】

9月20日(水)、宍粟市^{ありがほら}の有ヶ原国有林と近隣のひょうご農林機構との契約している分収造林地において、同機構や兵庫県森林林業技術センターの協力のもと、積雪地における低コストで壊れにくい防護柵に関する取組を紹介する現地検討会を開催しました。また、当日は、兵庫県等の行政機関や林業事業者などから総勢58名が参加しました。

国有林の現地では、切損等の被害を受けやすい防護柵の上張りロープをワイヤーロープに変更し、主支柱をより耐雪性の高



国有林：施工業者による説明

い鋼管に変更した防護柵、再造林地を分割して防護柵を設置するブロックディフェンス等の昨年度の取組について説明しました。

ひょうご農林機構の分収造林地では、兵庫県森林林業技術センターより、立木の支柱利用、土砂受けとして



民有林：兵庫県森林技術センターによる説明

の横木(林地残材)活用、又釘を使わない防護柵の立木への固定方法の説明が行われました。

意見交換では、計画段階で苦労した点や防護柵の設置方法等の質問があり、積雪地における防護柵について高い関心が寄せられました。

兵庫森林管理署では、今後も積雪地における防護柵をはじめとする地域課題について、民有林関係者と連携しながら取り組み、情報発信を行っていくこととしています。

お知らせ

森林のギャラリー(局庁舎1階)



【技術普及課】

○10月5日(木)～10月31日(火)の展示は、大阪府森林組合、日本木材加工技術協会関西支部早生植林材研究会、技術普及課、資源活用課です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【三重森林管理署】

○「下刈時期の弾力化に係る現地検討会」11月7日(火)開催のお知らせ(参加者募集)

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/mie/230925.html>



【技術普及課】

○令和5年度森林・林業交流研究発表会を11月21日(火)～22日(水)開催します。

参加者の応募方法等は下記の局ホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



【技術普及課】

○「水都おおさか森林(もり)の市2023」を令和5年10月22日(日)10時00分～15時30分、入場無料で開催します。

詳しくは下記の局ホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



花草木

【ガマ】

ガマ（蒲、香蒲、学名：Typha latifolia L.）は、ガマ科ガマ属の多年草で浅い水底の泥の中の根茎から茎が直立し、草丈は高さ1～2メートルになり、横に走る地下茎によって群生します。別名、ミズクサともいわれ、古くはカマとも呼ばれていました。円柱状の穂は蒲の穂と呼ばれます。花粉は蒲黄（ほおう）とよばれ、薬用にされます。

花の時期は夏の6～8月で、葉よりも高く茎を伸ばし頂に円柱形の花穂をつけ、上部は黄色い花粉をまき散らす雄花穂、下部の緑色部は雌花穂であり、雄花も雌花も花びらなどはなく、ごく単純な構造になっています。花が終わると、雌花穂は茶褐色になって太さも1.5～2cmと太くなり、ソーセージに形が似たいわゆる「ガマの穂」です。

晩秋になると、ガマの穂がほぐれて綿クズのような冠毛を持つ微小な果実が、風によって飛散し、水面に落ちると種子が果実から放出されて水底に沈み発芽します。また、強い衝撃を加えると種が煙のように飛び散ります。

花言葉は、従順、素直、慌て者、無差別、救護、慈愛、予言など多数あります。



ガマの穂（金沢城・石川県）

我が署のスタッフ 福井森林管理署

菊池 航生（きくち こうせい）（R5年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで車両及び測定を担当しています。現在は福井署の車両やホームページの更新に関する仕事を主に取り組んでいます。現場に出ることが多く、いろいろな作業の手伝いなどもしており、いつも勉強になることばかりです。まだまだ1年目ということもあり、わからないことが多くありますが、皆さんから支えられながら、これから多くのことを学びたいです。

【職場の雰囲気は？】

とても笑顔の多い職場だと思っています。張りつめすぎず緩みすぎず、とても心地よい空気感で仕事ができています。優しい方ばかりで、初めてする内容の業務でも安心して取り組むことができます。

【林野庁の魅力は？】

私はやはり自然豊かな国有林内できれいな川や珍しい生態系のそばで仕事ができることが大きな利点であり魅力だと考えています。



署内にて事務作業中

森林事務所紹介

長島森林事務所（三重森林管理署）

首席森林官 岩元 猛（いのもと たける）

長島森林事務所は三重県中部に位置する紀北町に所在し、紀北町と大台町に所在する4団地約2,081haの国有林と紀北町、大紀町、南伊勢町に所在する21団地約2,131haの官行造林地を管理しています。

管内には、熊野灘に面したリアス式海岸と大小の島々が点在した景勝地が多く、伊勢・志摩国立公園、県営公園、レクリエーション施設、奥伊勢宮川峡県立公園等があり、各町が環境保全と観光産業に力を入れています。

国有林では鍛冶屋又国有林及び十須国有林についてはそれぞれ、昭和32年(1957)と昭和54～55年(1919～1980)に旧紀伊長島町（現紀北町）から買い入れられた国有林で標高は約200～950mで、紀伊山脈の大台ヶ原より東南に位置する多紀郡・度会郡と北牟婁郡の郡境に位置し、熊野灘に注ぐ赤羽川の重要な水源となっています。

また、鍛冶屋又国有林内には京都府立大学との共同研究である早生樹植栽試験地（センダン）と、三重県林業研究所との共同研究であるヒノキ低コスト造林試験林地、三重署単独のコウヨウザン成長量等調査試験地の3つの試験地があり、共同研究者及び本署と連携しながら調査を行っています。

その他、久豆国有林は奥伊勢宮川峡県立自然公園内で宮川ダムの上流、大和谷の更に上流側に位置し、多くの滝、豊かな植生、冬には壮大な雪景色が見られる等、吉野熊野国立公園内にあり父ヶ谷の上流に位置する大杉谷（父ヶ谷）国有林と共に特に緑と清流豊かな地域となっています。

なお、当管内の特徴として国有林より官行造林地の団地数をはるかに多いことがあげられますが、他署の例にもれず、本契約終了及び延長契約後の期限が近づいてきているものが多く、これから先も多くの調査が必要となることが考えられることから、本署とも緊密に連携しつつ、地域との連携も図りながら業務を推進していきたいと思っています。



鍛冶屋又国有林内 早生樹植栽試験地（センダン）



奥伊勢宮川峡県立自然公園内 大和谷



久豆国有林内 冬の景色 氷の芸術



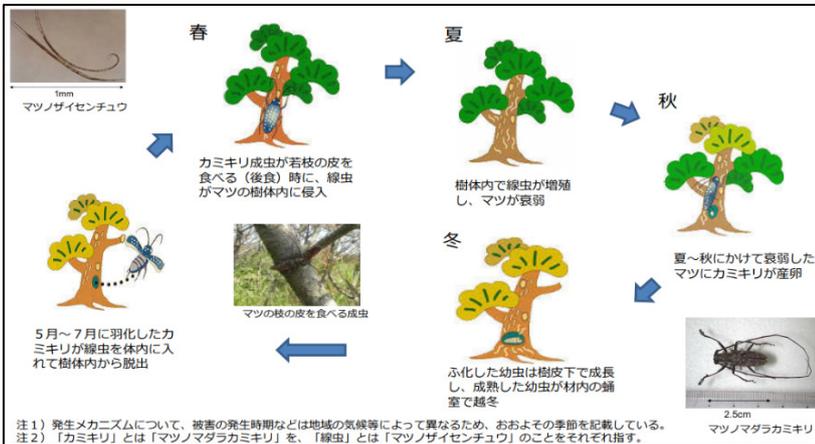
伊勢・志摩国立公園内 榎ノ谷官行造林

シリーズ『国有林最前線！』

『森林病虫害の現状と対策』

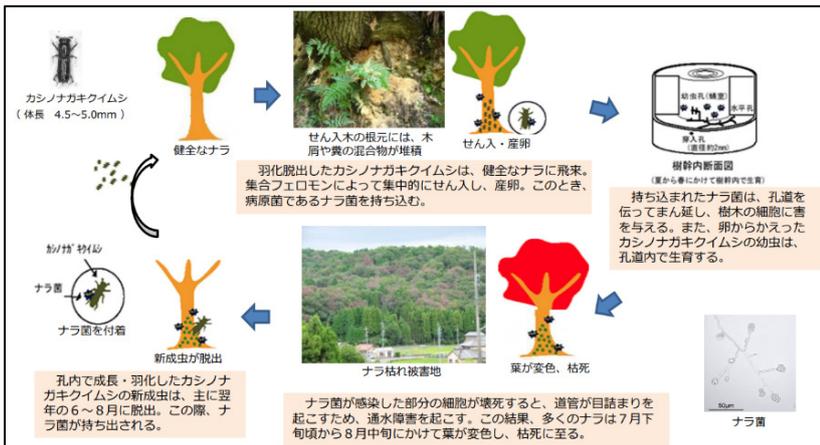
保全課

現在、国有林における病虫害は、松くい虫被害とナラ枯れ被害が大半を占めています。



松くい虫被害のサイクル

松くい虫の被害量(材積)は昭和54年度(1979)の243万 m^3 をピークに減少傾向にあり、令和3年度(2021)はピーク時の9分の1となる26万 m^3 の被害となりましたが、それでもその被害量は一般的な木造住宅1万1000戸分にあたり、対策を怠ると再び激しい被害を受ける恐れがあることから、引き続き被害状況に応じた対策が必要とされています。



ナラ枯れ被害のサイクル

ナラ枯れの被害量(材積)は平成22年度(2010)をピークに減少し、4万から9万 m^3 の間で推移していましたが、令和2年度(2020)に19万 m^3 に急増しています。令和3(2021)年度には前年度の80%である15万 m^3 に減少しましたが、被害が増加しないよう適切な対策が必要とされています。

当局においても、特別伐倒駆除や立木くん蒸などの駆除事業及び、被害を未然に防ぐためにヘリによる薬剤の空中散布や動力噴霧器等による地上散布、薬剤を直接樹体に打ち込む樹幹注入などの防除事業を実施しています。



ヘリによる空中散布の様子 樹幹注入実行中の様子

